

	年		組		番	名前	
--	---	--	---	--	---	----	--

教材 1-A-(1)の解答 古代から中世までの社会の様子

次の（ア）～（コ）の説明はどの時代のものであるかを、【表】の中の①～⑨から選び、番号で答えなさい。

【表】

① 縄文 <small>じょうもん</small>	② 弥生 <small>やよい</small>	③ 古墳 <small>こふん</small>	④ 飛鳥 <small>あすか</small>	⑤ 奈良 <small>なら</small>	⑥ 平安 <small>へいあん</small>	⑦ 鎌倉 <small>かまくら</small>	⑧ 南北朝 <small>なんぼくちよう</small>	⑨ 室町 <small>むろまち</small>
------------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-----------------------------

【社会の様子】

- (ア) 稲作が伝わると、人々のあいだに貧富の差ができ、支配者も現れた。
- (イ) 大王を中心おおきみに、大和と周辺の有力な豪族ごうぞくで構成されていたヤマト王権が支配を強めた。
- (ウ) 中・小型の動物と魚や貝、ドングリが重要な食料であり、土器を使用し煮炊きを行う習慣も広まった。
- (エ) 天皇を中心とする国家のしくみを整えようとし、冠位十二階かんいじゅうにかいの制度を定めて、世襲せしゅうではなく個人の才能によって役人を採用することとした。
- (オ) 天候不順や疫病えきびょうで税を納められず逃亡する農民も増え、人口の増加による口分田くぶんでんの不足もあり、墾田永年私財法こんでんえいねんしざいほうが出された。
- (カ) 商業が活発になり定期市の回数も増え、農村にも貨幣が浸透し、土倉どそうとよばれた質屋しちやのほか、酒屋も高利貸しを営み、都市の近くの農民もこれを利用した。
- (キ) 裏作うらさくに麦を作る二毛作にもうさくも始まり、草や木の灰を用いた肥料も普及し始めた。
- (ク) 弓矢や騎馬などの武芸に優れ、朝廷や国司に仕えて警備や護衛にあたる武士ぶしがあらわれた。
- (ケ) 惣そうと呼ばれる自治組織を形成し、有力者を中心に全員で力を合わせて村を守るようになった。
- (コ) 各地の武士が南朝と北朝とに分かれて戦い、約60年にわたって全国的な内乱ないらんが続いた。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
②	③	①	④	⑤

(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
⑨	⑦	⑥	⑨	⑧

それぞれの説明文を、教材 6-①の表にあてはめて記入してみよう。
社会の様子の変化を、時代の流れの中でまとめることができます。